

【3.1】

xy 平面上の曲線

$$C: x^2 - xy + y^2 = 3 \quad \dots\dots(1.1)$$

の囲む領域を \mathcal{D} とする.

- (1) C を原点中心に右回りに 45° 回転した曲線 C' の方程式を求めよ.
 (2) \mathcal{D} の $x \geq 0$ の部分を y 軸の周りに回転して得られる立体の体積を求めよ.

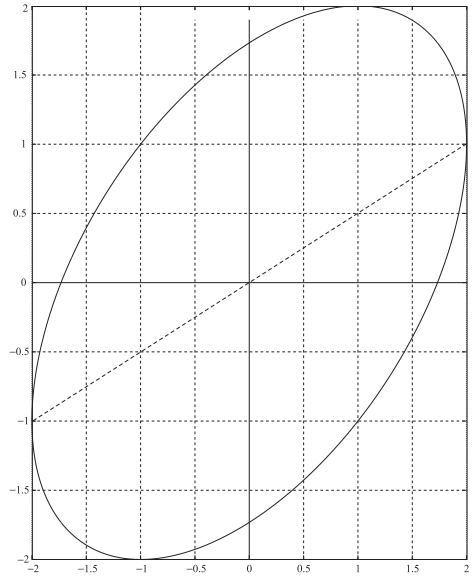
【解答】

(1) C 上の点を (x, y) , C' 上の点を (x', y') で表す.
 題意より,

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} \cos 45^\circ & -\sin 45^\circ \\ \sin 45^\circ & \cos 45^\circ \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} \\ \Leftrightarrow \begin{cases} x = \frac{1}{\sqrt{2}}(x' - y') \\ y = \frac{1}{\sqrt{2}}(x' + y') \end{cases} \quad \dots\dots(1.2) \end{aligned}$$

(1.2) を (1.1) に代入して,

$$\begin{aligned} \frac{1}{2}(x' - y')^2 - \frac{1}{\sqrt{2}}(x' - y') \times \frac{1}{\sqrt{2}}(x' + y') + \frac{1}{2}(x' + y')^2 &= 3 \\ \Leftrightarrow \frac{(x')^2}{6} + \frac{(y')^2}{2} &= 1 \quad \dots\dots(1.3) \end{aligned}$$



(2) 方程式 (1.1) を y について解いて,

$$x^2 - xy + y^2 = 3 \Leftrightarrow y = \frac{x \pm \sqrt{12 - 3x^2}}{2} \quad \dots\dots(1.4)$$

楕円 C の領域 $y \geq x/2$ の部分を y_1 , 領域 $y \leq x/2$ の部分を y_2 で表せば,

$$y_1 = \frac{x + \sqrt{3}\sqrt{4 - x^2}}{2} \wedge y_2 = \frac{x - \sqrt{3}\sqrt{4 - x^2}}{2} \quad \dots\dots(1.5)$$

更に,

$$y_1 = y_2 \Leftrightarrow x = \pm 2 \quad \dots\dots(1.6)$$

従って, 求める体積は,

$$2\pi \times \int_0^2 x(y_1 - y_2) \, dx = 2\sqrt{3}\pi \times \int_0^2 x\sqrt{4 - x^2} \, dx = \sqrt{3}\pi \times \int_0^4 t^{\frac{1}{2}} \, dt = \sqrt{3}\pi \left[\frac{2}{3}t^{\frac{3}{2}} \right]_0^4 = \frac{16\pi}{\sqrt{3}} \quad \dots\dots(1.7)$$

【3.2】

xyz 空間において, yz 平面上の双曲線

$$2y^2 - z^2 = 2 \wedge x = 0 \quad \dots\dots(2.1)$$

を z 軸の周りに回転してできる曲面 G と 2 つの平面

$$z = y + 1, \quad z = y - 1 \quad \dots\dots(2.2)$$

によって囲まれる立体図形を R とする.

- (1) 曲面 G の方程式を求めよ.
- (2) 平面 $\pi: z = y + t$ ($-1 \leq t \leq 1$) による切口の図形の面積を求めよ.
- (3) R の体積を求めよ.

【解答】

- (1) 双曲線 (2.1) と直線 $z = t \wedge x = 0$ との交点は,

$$\left(0, \sqrt{1+t^2/2}, t\right)$$

であるから, 回転双曲面 G と平面 $z = t$ との交円は,
平面 $z = t$ と円柱面 $x^2 + y^2 = 1 + t^2/2$ との交円である.
この 2 式から t を消去して,

$$G: x^2 + y^2 = 1 + \frac{1}{2}z^2 \quad \dots\dots(2.3)$$

- (2) 回転曲面 G の平面 $z = y + t$ による切口の楕円を xy 平面に正射影した楕円を平面 $z = 0$ との切口とする楕円柱面の方程式は, (2.3) に $z = y + t$ を代入して,

$$\frac{x^2}{1+t^2} + \frac{(y-t)^2}{2(1+t^2)} = 1 \quad \dots\dots(2.4)$$

円柱面 (2.4) の平面 $z = 0$ による切口の楕円の面積は,

$$\sqrt{1+t^2} \times \sqrt{2(1+t^2)}\pi = \sqrt{2}(1+t^2)\pi \quad \dots\dots(2.5)$$

また, 平面 $z = 0, z = y + t$ のなす角 θ ($0 \leq \theta \leq \pi/2$) に対して,

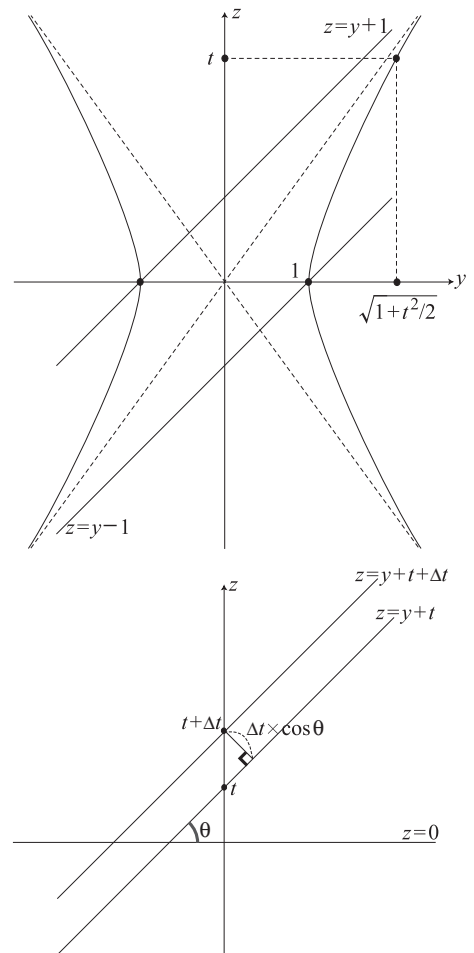
$$\cos \theta = \frac{|(0, 0, 1) \cdot (0, 1, -1)|}{|(0, 0, 1)| \times |(0, 1, -1)|} = \frac{1}{\sqrt{2}} \quad \dots\dots(2.6)$$

が成り立つので, 求める面積は,

$$\sqrt{2}(1+t^2)\pi \times \frac{1}{\cos \theta} = 2(1+t^2)\pi \quad \dots\dots(2.7)$$

- (3) (2.6), (2.7) により, 求める体積は,

$$\int_{-1}^1 2(1+t^2)\pi \cdot \cos \theta \, dt = 2\sqrt{2}\pi \left[t + \frac{1}{3}t^3 \right]_0^1 = \frac{8\sqrt{2}\pi}{3} \quad \dots\dots(2.8)$$



【3.3】

空間内の3点

$$A(0, 0, 1), \quad B\left(\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{2}}, 0\right), \quad C\left(\frac{1}{\sqrt{2}}, -\frac{1}{\sqrt{2}}, 0\right)$$

を頂点とする三角形の内接円を \mathcal{D}_1 , 外接円を \mathcal{D}_2 とする.

\mathcal{D}_1 の外部にあり, \mathcal{D}_2 の内部にある領域を x 軸の周りに回転してできる立体の体積を求めよ.

【解答】

3点 A, B, C は球面 $x^2 + y^2 + z^2 = 1$ 上にあるので, 外接円 \mathcal{D}_2 は, この球面と平面 $z = 1 - \sqrt{2}x$ との交円と考えられ, (Fig.1) この2図形を平面 $x = t$ で切った切断面の図形は Fig.3 である. Fig.3 における線分 (球面 $x^2 + y^2 + z^2 = 1$ と平面 $z = 1 - \sqrt{2}x$ との交円を平面 $x = t$ で切った切口の2点を結ぶ線分) を点 $(t, 0, 0)$ の周りに回転して得られる円環領域の面積は,

$$\pi((1-t^2) - (1-\sqrt{2}t)^2) = \pi(2\sqrt{2}t - 3t^2) \quad \dots\dots(3.1)$$

この線分が存在する t の値の範囲は,

$$\sqrt{1-t^2} \geq |1-\sqrt{2}t| \iff 2\sqrt{2}t - 3t^2 \geq 0 \quad \dots\dots(3.2)$$

従って, \mathcal{D}_2 を回転して得られる立体の体積 V_{out} は,

$$\begin{aligned} V_{out} &= \pi \int_0^{\frac{2\sqrt{2}}{3}} (2\sqrt{2}t - 3t^2) dt \\ &= -\frac{1}{6} \times (-3\pi) \times \left(\frac{2\sqrt{2}}{3}\right)^3 = \frac{8\sqrt{2}\pi}{27} \quad \dots\dots(3.3) \end{aligned}$$

Fig.1 より, \mathcal{D}_1 は球面 $x^2 + y^2 + z^2 = \frac{1}{2}$ と平面 $z = 1 - \sqrt{2}x$ との交円と考えられるので, 交円 \mathcal{D}_1 の平面 $x = t$ による切口の線分を点 $(t, 0, 0)$ の周りに回転して得られる円環領域の面積は,

$$\pi\left(\left(\frac{1}{2} - t^2\right) - (1 - \sqrt{2}t)^2\right) = \pi\left(-3t^2 + 2\sqrt{2}t - \frac{1}{2}\right) \quad \dots\dots(3.4)$$

この切口の線分が存在する t の値の範囲は,

$$\sqrt{\frac{1}{2} - t^2} \geq |1 - \sqrt{2}t| \iff -3t^2 + 2\sqrt{2}t - \frac{1}{2} \geq 0 \quad \dots\dots(3.5)$$

従って, \mathcal{D}_1 を回転して得られる立体の体積 V_{in} は,

$$V_{in} = \pi \int_{\frac{\sqrt{2}}{6}}^{\frac{\sqrt{2}}{2}} \left(-3t^2 + 2\sqrt{2}t - \frac{1}{2}\right) dt = \frac{\sqrt{2}\pi}{27} \quad \dots\dots(3.6)$$

(3.3), (3.6) により求める体積は,

$$\frac{8\sqrt{2}\pi}{27} - \frac{\sqrt{2}\pi}{27} = \frac{7\sqrt{2}\pi}{27} \quad \dots\dots(3.7)$$

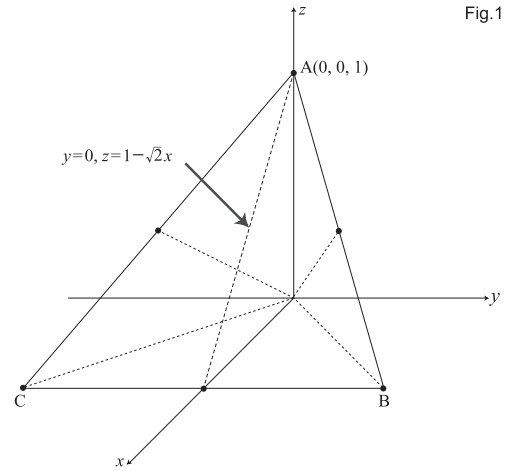


Fig.1

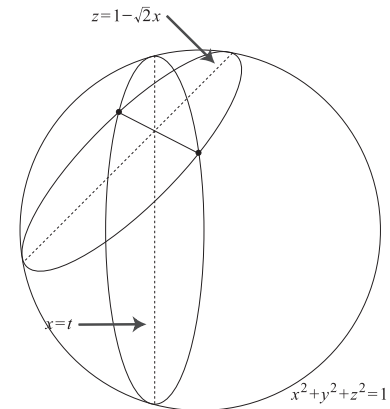


Fig.2

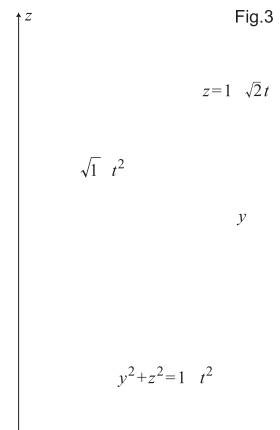


Fig.3

【3.4】

原点 O を中心として回転する半直線 ℓ と ℓ に接しながら動く半径 1 の円 \mathcal{C} がある。

時刻 $t=0$ において、 ℓ は y 軸の負の部分に一致しており、 \mathcal{C} は中心が $(1, 0)$ にあって、原点で ℓ に接している。

時刻 t において、 ℓ は原点中心に正の向きに角 t だけ回転し、 \mathcal{C} は ℓ 上を滑らずに転がり、原点から $2t$ の距離の点 R で ℓ に接している。 \mathcal{C} の中心を P とする。点 Q は \mathcal{C} の周上の定点で $t=0$ において原点にあるものとする。

(1) 時刻 t における 2 点 P, Q の座標を t の式で表せ。

(2) $0 \leq t \leq \pi/2$ における P の軌跡を \mathcal{R}_1 、 Q の軌跡を \mathcal{R}_2 とする。

2 点 $(0, 0), (1, 0)$ を結ぶ線分、2 点 $(\pi, 1), (\pi, 2)$ を結ぶ線分および $\mathcal{R}_1, \mathcal{R}_2$ で囲まれる領域の面積を求めよ。

【解答】

(1) \vec{OR} が x 軸の正方向とのなす角は $-(\frac{\pi}{2} - t)$ であり、

$|\vec{OR}| = 2t$ であるから、

$$\begin{aligned} \vec{OR} &= 2t \left(\cos \left(t - \frac{\pi}{2} \right), \sin \left(t - \frac{\pi}{2} \right) \right) \\ &= (2t \sin t, -2t \cos t) \quad \dots\dots (4.1) \end{aligned}$$

また、 \vec{RP} が x 軸の正方向とのなす角は t であるから、

$$\vec{RP} = (\cos t, \sin t) \quad \dots\dots (4.2)$$

(4.1), (4.2) より、

$$\vec{OP} = \vec{OR} + \vec{RP} = (2t \sin t + \cos t, -2t \cos t + \sin t) \quad \dots\dots (4.3)$$

次に、 $OR = 2t$ であるから RQ の弧長も $2t$ であり、 $\angle RPQ = 2t$

$$\therefore \vec{PQ} = (\cos(\pi - t), \sin(\pi - t)) = (-\cos t, \sin t) \quad \dots\dots (4.4)$$

(4.3), (4.4) より、

$$\vec{OQ} = \vec{OP} + \vec{PQ} = (2t \sin t, -2t \cos t + 2 \sin t) \quad \dots\dots (4.5)$$

(4.3), (4.5) より、

$$P(2t \sin t + \cos t, -2t \cos t + \sin t), \quad Q(2t \sin t, -2t \cos t + 2 \sin t) \quad \dots\dots (4.6)$$

(2) Q の軌跡 \mathcal{R}_2 について;

$0 < t < \pi/2$ において、

$$\frac{dx}{dt} = 2(\sin t + t \cos t) > 0 \quad \wedge \quad \frac{dy}{dt} = 2t \sin t > 0 \quad \dots\dots (4.7)$$

より、 \mathcal{R}_2 は原点から点 $(\pi, 2)$ まで単調増加。

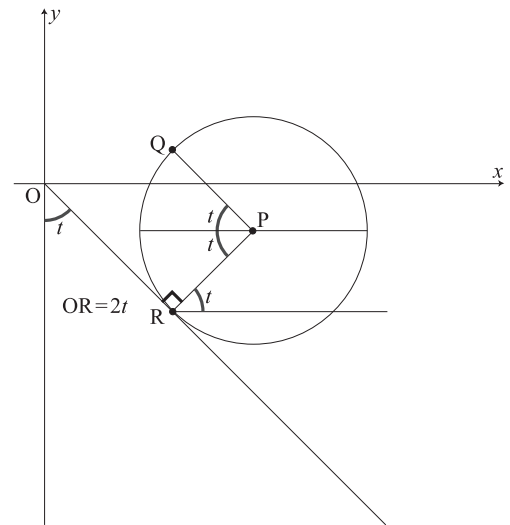
P の軌跡 \mathcal{R}_1 について;

$0 < t < \pi/2$ において、

$$\frac{dx}{dt} = 2t \cos t + \sin t > 0 \quad \wedge \quad \frac{dy}{dt} = t \cos t \left(2 \tan t - \frac{1}{t} \right) \quad \dots\dots (4.8)$$

ここで、2 曲線 $2 \tan t, 1/t$ のグラフを考慮すれば、

dy/dx は $0 < t < \pi/2$ 内のある t_0 でその符号を負から正に変える。(次頁上図)



従って, \mathfrak{R}_1 は点 $(1, 0)$ から極小点

$$M(2t_0 \sin t_0 + \cos t_0, -2t_0 \cos t_0 + \sin t_0)$$

まで単調減少, M から点 $(\pi, 1)$ まで単調増加.

以上より, $\mathfrak{R}_1, \mathfrak{R}_2$ の囲む領域は下図であり, その面積は,

$$\begin{aligned} & \int_0^{\pi} y_Q \, dx - \int_1^{\pi} y_P \, dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} (-2t \cos t + 2 \sin t) \cdot 2(t \cos t + \sin t) \, dt \\ & \quad - \int_0^{\frac{\pi}{2}} (-2t \cos t + \sin t)(\sin t + 2t \cos t) \, dt \\ &= 3 \times \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 t \, dt = 3 \times \frac{1}{2} \times \frac{\pi}{2} = \frac{3\pi}{4} \quad \dots\dots(4.9) \end{aligned}$$

